



報道関係者各位

文教大学経営学部 田中克昌ゼミナールの学生チームが
「第 15 回日本小児在宅医学会学術集会」で学会発表
— 医療的ケアを必要とする学生と田中ゼミ生による共創 PBL の成果を、
学生自身が医療・福祉の専門家に発信 —

2026 年 8 月 23 日、パシフィコ横浜で開催された「第 15 回日本小児在宅医学会学術集会」において、文教大学経営学部 田中克昌ゼミナールの学生チームが、「医療的ケアを必要とする障がい児者と協働で行う課題解決型学修（PBL）がもたらす影響」をテーマに学会発表を行いました。



今回の発表では、日常的に医療的ケアを必要としながら文教大学で学ぶ経営学部 4 年の中村亮介さんと田中ゼミ生が、介助者である佐々木淑子さん（社会福祉法人ソーシャルディベロップメントジャパン）とともに取り組んできた、企業との課題解決型学修（PBL）の成果を報告しました。中村さん自身の経験や思いを起点としながら、田中ゼミ生、介助者、企業がともに課題を考え、解決策を検討してきた共創型の PBL です。

発表では、中村さん自身の障がいや日常生活における経験を起点として、トリドールホールディングス、ならびにエステー株式会社・日本かおり研究所との連携により実施した 2 つの PBL を取り上げました。



一つの PBL では、中村さんの「口から食べることができなくても、みんなと一緒にお店やその空間を楽しみたい」という経験や思いを起点として、障がいの有無にかかわらず誰もが共に楽しめる店舗やサービスのあり方を検討しました。

もう一つの PBL では、介護する側と介護される側の双方に生じる心理的負担に着目し、日常的なケアの中に「癒し」や会話のきっかけを生み出す商品・サービスを検討・提案しました。

これらの活動では、障がいのある人を一方的に「支援を受ける側」として捉えるのではなく、本人の経験から見えてくる課題やニーズを価値創造の起点として捉えています。中村さん、田中ゼミ生、介助者、企業がそれぞれの経験や知識を持ち寄ってともに考えることで、新たな商品やサービス、社会的価値の創出につなげることを目指してきました。



中村さん自身も、PBL を通じ、自らの障がいの特性や経験を伝えることがビジネスプランの重要な視点となったことで、自信や自己肯定感につながったと振り返りました。また、自分の意見を企業や社会に伝えることで、社会に働きかけられる可能性を実感したとしています。

【発表の様子】



■学生のコメント

◇中村亮介さん（経営学部 4 年）のコメント

私は先天性ネマリンミオパチーがあり、気管切開をしているため、自分の声で話すことができません。今回の学会発表では、AI を活用して自分が伝えたいことを音声にし、田中ゼミのみんなと一緒に発表することができました。PBL を通じて、自分の障がいや経験が企業への提案を考える大切な視点となり、「支援を受ける側」としてだけではなく、社会課題の解決や新しい価値の創造に貢献できることを学びました。初めて学会発表という大きな舞台に立って緊張しましたが、自分が伝えたいことを自分の発表として多くの方に届けられたことは、大きな自信になりました。

◇永井空さん（経営学部 4 年・田中ゼミ）のコメント

今回の PBL では、中村さんの経験や思いを聞くことで、私たちだけでは気づけなかった課題を知り、みんなで企業への提案を考えてきました。活動が続ける中で、中村さんを「支援する相手」としてではなく、同じチームの一員として一緒に考えることが当たり前になっていきました。今回、医療や福祉の専門家が集まる学会で、中村さんとともにその成果を発表できたことは、とても貴重な経験になりました。

■中村さんの介助者：佐々木淑子氏（社会福祉法人ソーシャルディベロップメントジャパン）のコメント

今回の発表は、これまでの医療的ケア児者支援の枠を一步、二歩先へ進めるような内容であり、会場で聞いていた医療的ケアの支援者の方々も、驚きと感動をもって受け止めてくださったように感じました。私自身も大変感動し、今も余韻が残っています。中村さんを通じて田中先生や学生の皆さんと出会い、一緒に活動できたことをとてもうれしく思っています。これまで医療的ケア児者の支援を続けてきて本当によかったと、改めて感じる機会にもなりました。学生の皆さんが、普段とは異なる医療・福祉の学会でも堂々と発表する姿はとても頼もしく、この経験が皆さんの人生の中に残る大切な経験になればと思っています。

今回の学会発表は、経営学部で行われてきた企業との PBL が、学生の学修にとどまらず、医療・福祉分野の専門家と知見を共有する学術活動へと発展したものです。当日は、中村さんと田中ゼミ生がともに登壇し、企業との共創を通じて得られた成果と、それぞれの立場から得られた学びを発表しました。

さらに、本発表の内容は、2026 年 9 月 9 日に文教大学東京あだちキャンパスで開催される「人を大切にする経営学会 第 13 回全国大会」においても発展的に報告されます。田中克昌教授、中村亮介さん、田中ゼミ生一同、佐々木淑子さんが特別講演「企業との課題解決型学修（PBL）がもたらす新たな価値—医療的ケアが必要な学生との共創によるインクルーシブイノベーション—」に登壇し、今回の実践を経営学の視点からさらに考察します。



今後も文教大学経営学部 田中ゼミでは、企業や地域と連携した課題解決型学修（PBL）を通じて、多様な人々の経験や個性を社会課題の解決と新たな価値創造につなげる取り組みを進めていきます。

■発表概要

【学会名】第15回日本小児在宅医学会学術集会

【開催日】2026年8月23日（日）

【会 場】パシフィコ横浜

【演題名】

「医療的ケアを必要とする障がい児者と協働で行う課題解決型学修（PBL）がもたらす影響」

【発表者】

関根遼也、島寛之、田中琉斐、永井空、西村翼、小林菜々花、細井美玖、福本愛

（文教大学経営学部 田中克昌ゼミナール）

中村亮介（文教大学経営学部）

佐々木淑子（社会福祉法人ソーシャルディベロップメントジャパン）

■今後の関連情報について

【講演名】人を大切にする経営学会 第13回全国大会「特別講演」

【日 時】2026年9月9日（水）

【会 場】文教大学 東京あだちキャンパス

【タイトル】

「企業との課題解決型学修（PBL）がもたらす新たな価値

ー医療的ケアが必要な学生との共創によるインクルーシブイノベーションー」

【発表者】

田中克昌（文教大学経営学部 教授）

中村亮介・田中ゼミ生一同（文教大学経営学部）

佐々木淑子（社会福祉法人ソーシャルディベロップメントジャパン）

■文教大学概要：

学長／宮武 利江

建学の精神／「人間愛」

在籍学生／8,791名（2026年5月1日現在）

越谷キャンパス（教育学部・人間科学部・文学部）、湘南キャンパス（情報学部・健康栄養学部）、

東京あだちキャンパス（国際学部・経営学部）の3キャンパスからなる総合大学です。

<https://www.bunkyo.ac.jp/>

文教大学学園

〔越谷キャンパス〕 埼玉県越谷市南荻島 3337

教育学部 人間科学部 文学部

大学院 専攻科 外国人留学生別科

〔旗の台キャンパス〕 附属中学校・高等学校 附属幼稚園

〔石川台キャンパス〕 附属小学校

〔湘南キャンパス〕 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

情報学部 健康栄養学部 大学院

〔東京あだちキャンパス〕 東京都足立区花畑 5-6-1

国際学部 経営学部 大学院

＜発信＞ 学校法人文教大学学園

法人事務局 経営企画室 担当：岩淵（いわぶち）

〒121-8577 東京都足立区花畑 5-6-1

TEL：03-5686-8577(代) FAX：03-5856-5828

E-mail：wcntct@bunkyo.ac.jp